

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370900235		
法人名	社会福祉法人つくし会		
事業所名	認知症高齢者グループホームつくしの里		
所在地	岩手県一関市滝沢寺字下2番地1		
自己評価作成日	平成28年11月14日	評価結果市町村受理日	平成29年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kan=true&jigyosyoCd=0370900235-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年12月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成11年に開所し今年で18年目を迎えるグループホームです。併設施設に、特養・デイサービス・高福センター・居宅があり、連携を図っています。利用者の重度化はありますが、センター方式を活用し、個々に出来る事を見極めながら、ケアに努めています。行事や外出を計画し、楽しんで頂ける機会をつくるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特別養護老人ホーム・デイサービス・高齢者生活福祉センター・居宅介護支援事業所が併設されており、地域からの信頼も厚く、合同で行う避難訓練では地域住民の協力も得ている。また、先駆けて地元小学校との里孫交流が続いている。京セラ经营理念によりアメーバ経営を導入し、毎月会議が開かれ、職員一人ひとりが、サービスの質を下げることなく、コスト意識を持ち、仕事に取り組んでいる。社会福祉法人つくし会は、特別養護老人ホーム「明生園」「真生園」「関生園」、グループホーム「つくしの里」「ゆいとり」「ほっとスマイル」やデイサービス、在宅支援センター、高齢者福祉センター等、多くの事業所間の連携により、利用者が重度化した時の受け入れや、充実した職員研修が行われている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	つくしの里の理念を掲げ、目のつく場所に掲示をしている。毎年度、努力目標・実施細目を職員からの意見をもらい立て、日頃の業務の実践につなげている。	つくしの里の理念をもとに、毎年度、「努力目標」「実施細目」を職員で話し合い、日頃の業務に活かし実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	母体施設との合同の行事の際に、地域の方々との交流の機会がある。運営推進会議に参加があり、ご意見を頂いている。里孫交流があり、小学校の行事を見にいっく機会をもった。	小学校の跡地に建てられた事業所で、地域の方々の「自分たちの事業所」となっている。里孫交流や、学習発表会の見学の機会を持ち、母体で行う行事を通して地域との交流が行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	看護学生等の実習生の受け入れを行ない、認知症の方への理解を持って頂く場となっている。施設への見学や電話相談があった際には、事業所内での様子を伝え支援の状況などお話ししている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、全利用者のご家族に案内を送付し、参加頂けるよう働きかけている。会議時に、事業所の普段の様子をお伝えし、参加メンバーより、意見やアドバイスを頂き、サービスの向上につなげられるようにしている。	2ヶ月に1回、運営推進会議が行われている。案内を家族に送付し、出席していただけるよう働きかけている。駐在所から、ゲスト的に出席し、利用者の不意の外出の対応のアドバイスをいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の来所があり、利用者とお話して頂いている。生保の方がいるので、定期的に来所があり、状況の報告を行っている。集団指導等に参加をし、話を聞く機会があり、書類の提出時にも相談する事がある。	介護保険課より運営推進会議に出席していただいております。顔なじみの関係となっている。また、介護相談員が半年に1回訪問し、利用者から、様々聞き取りをしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束している人はいない。学習会を行い、身体拘束をしないでケアできるように努力している。玄関の施錠については、夜間の防犯の為に、日中は、利用者が自由な出入りが出来るようにしている。	身体拘束の検討委員会があり、年に1度、研修が行われている。センサーマットを夜間使用しているが、ご家族に説明し、了解を得ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会や会議等で、学ぶ機会や所長からの注意喚起を促している。日頃の業務内でも、気をつけながら対応するようにし、防止に努めている。			

岩手県 認知症対応型共同生活介護 認知症高齢者グループホームつくしの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在の利用者の中で活用されている方はいない。学習会を行い、勉強をする機会を持ち、今後、必要な時には活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分に説明をし、理解・納得を頂くようにし、確認内容があれば、随時、対応している。改定時は、説明会を行い、理解を得るようにしている。解約時は、必要な事を確認しながら話を進めるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等、御家族にお会いした際に意見等頂いている。契約時には、オンブズマンの方にお話頂ける事等を説明している。運営推進会議に参加された際にも、要望等をお聞きし、運営に反映できるようにしている。	過去にはアンケート等も実施しているが、意見をいただくには至っておらず、面会時等に家族に伺うようにしている。また、運営推進会議の案内を出し意見を聞く機会を作っている。家族からは、感謝の言葉が多く聞かれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、業務時に提案等頂ながら、なんでもノートを活用し意見を頂いている。職員会議には、所長と話ができる場となっている。アメーバの部署内での会議事にも、職員の意見をもらえる機会となっている。	社会情勢、福祉情勢を見据えて、アメーバ経営を導入しており、職員全員参加のもと、経営視点で業務に関することや、設備に関する事について多くの意見が出るようになってきている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内で各種手当や昇給の規定を設け、職場環境の整備・職員のやりがいとなるようにしている。勤務作成時、可能な限り、必要な休みが取れるように努め、家の事やリフレッシュができる時間がもてるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で新人研修を行い、新しい職員の方の研修の機会となっている。外部研修に参加する際には、各職員が参加できるよう調整し、勤続年数をみながら受けられる研修にも受ける事ができるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加時に交流する機会を持ち、情報交換したりしている。法人内でのGHとの毎月の会議の際に、お互いの活動の状況を報告し、サービスの向上となるように努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 認知症高齢者グループホームつくしの里

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境が変わり慣れない中で、本人の不安が少しでもなくなるよう話をよく聞くようにしている。関わる機会を多くもつようにし、関係づくりをしながら安心して生活して頂けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前より、連絡をとりながら、御家族の気になっている事など確認しし説明行っている。入所されてからも、要望を聞きながら、信頼関係をつくことができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今何を必要としているか、御家族よりお聞きし、本人の話や様子をみながら、職員間で情報共有し、その時にあったベストな対応ができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々のできる事を見極めながら、家事手伝い等、できる範囲で行って頂いている。本人から草取り等したいとの希望があった際には、本人のペースで無理なくして頂き、自身につながるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段より、本人の様子を伝えながら、毎月の写真つきのお便りでも報告おこなっている。通院の協力を得たり、行事への参加、外出機会を持って頂いている。面会時は、本人とゆっくり過ごして頂けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の民生委員や近所の方の来所して頂くことがある。御家族の協力で自宅へ行かれたり、馴染みの床屋へ行かれる機会をもっている。	2名の利用者は以前から利用していた理容院に出かけている。定期的に自宅に帰っている利用者や、以前暮らしていた地域の民生委員が、敬老会に顔を見に来ている。また、年賀はがきをいただいた時には返信の手伝いをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性もみながら、食堂の座席を考慮し、話をしたりすることが出来るようにしている。その時々様子をみながら、職員が間に入ったりし、関わりをもてるようにしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 認知症高齢者グループホームつくしの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の生活の場所へのフォローをしながら、契約終了後も、家族と会った際に状態を聞く機会がある。相談などがあれば、対応するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を汲み取りながらできるようにしている。思いを伝えるのが難しい方には、家族とも話をしながら、本人が好む事を汲み取り対応するようにしている。	入居前より事前に利用者の生活歴等情報収集を行っているが、現状との違いを感じる時もあり、日常生活の中から思いを汲みとれるよう対応している。また、プランを話し合う機会に、家族より意向を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前から、本人の状況を確認するようにしている。入所後は、本人と話をしたり、家族より情報をもらいながら、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の体調や心身の状態を把握し、その時々に応じた生活のペースで過ごして頂けるようにしている。できる事については、少しでも長く継続していけるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を伺いながら、本人の現在の様子をお伝えし、ケアプランを作成している。定期的にモニタリングを行い、変化がある場合にはカンファレンスを行い、現在の状態に合わせたケアプランを作成するようにしている。	ケアプランは、ケアマネジャーと担当職員で検討し、モニタリングは、担当職員が毎月行っている。日々の気付きは、その都度必要に応じて話し合いを持ち、調整が行われている。カンファレンスは、全職員参加で毎月行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録に入力しながら、なんでもノートを活用し、普段の気づきや必要な情報が共有できるようにしている。ケアプランにアがっている内容は、チェック表を使用し実施の状況を記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の中で、その時々ニーズや状況に応じて柔軟な対応が出来るように取り組んでいる。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 認知症高齢者グループホームつくしの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの小学校と里孫交流をしたり、併設施設に近所の床屋が来られており、定期的に利用して散髪している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を受診している。本人の状態をみながら、家族に症状を伝え、必要に応じて病院の変更を行うこともある。家族から相談があった際にも、必要な治療がうける事ができるよう、理解・納得を頂ながら対応している。	通院は家族対応が原則であるが、週1回看護師が来苑し、バイタルチェック、皮膚状態等、健康状態を観察し、日常の状態を、かかりつけ医に伝えられるように支援されている。家族の状況によっては、職員(看護師)が通院介助することもある。その際は、電話や毎月のお便り等で家族に状況を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の看護師の出勤時には、状態報告し状態をみて頂き処置して頂いたり、病院受診をしてもらっている。それ以外にも、電話連絡し、対応についてアドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、訪問し本人の状態を看護師などから聞き確認している。病院の相談員と連絡を取りながら、早期の退院、退院後に必要な対応ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態を家族に伝えながら、施設で対応できる事・できない事を説明しながら理解を頂き、意向を把握している。特養の申し込みを希望される際には、他事業所と連携し対応している。	入居時に、特養ホームが空くまでの希望で、グループホームを利用している利用者もいる。法人内の3施設(特養ホーム)で、重度化した場合は隣接の明生園に入所になるケースもある。看取りについてや急変時の対応についての研修の機会を作り、家族や利用者の希望に添えるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	学習会をしたり、看護師より器具の使い方を教えて頂く機会をもっている。勤務年数の短い職員もいるので、急変時などに備えて、定期的に行っていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震時の訓練を定期的に行っている。日勤帯・夜勤帯の状況を想定し訓練を行ない、併設施設との合同の訓練も計画している。9月の合同防災訓練の際は、実際に消火器を使用し、初期消火の訓練を行っている。	9月に合同避難訓練が行われている。その時に、地域の協力隊6名の参加があった。また、地盤のしっかりした土地に建てられていることの確認を行っている。グループホーム単独で夜間の避難訓練を行い、新たに反射材のたすきと防災頭巾を準備している。	

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切にし、対応するように心がけている。個人のプライバシーを損ねないようにし、個人情報を取り扱う際にも、十分に気をつけるようにしている。	利用者一人ひとりに合わせた声掛けを心掛けて いる。広報などへの写真の利用は、家族から承諾 を得て使用している。居室前の木の表札が個々を 尊重し、新鮮に感じられる。職員は、採用時に守 秘義務の誓約書を提出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	利用者個々の思いや希望を把握しながら、自分 で決める事が出来るように働きかけている。表出 の難しい方には、選択できるような問いかけをし たりし、本人の気持ちを大事にするようにしてい る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが、その日の自分の体調や気 分に合わせ、自分のペースで過ごして頂けるよう 支援するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	自分で行う事が難しい場合でも、鏡やブラシを準 備し整容して頂けるように働きかけている。その 人の好みにあった服を着て頂けるようにし、買い 物の希望があった際には、一緒に出掛け購入す る機会をもった。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	出来る範囲で手伝って頂き、おやつ作りや野外食 をする際にも、一緒に作ったりしている。一緒に食 事を摂りながら会話をもっている。希望の物があ れば、購入し提供するようにしている。	調理を手伝う利用者は1～2名、台拭きは4名、片 付けは2～3名の方が行っている。暖かい時期に は、バーベキューを行い、楽しんでいる。主に男 性利用者が、プランターで、ナスやピーマン・紫 蘇・キュウリなどを栽培している。「かわった物が 食べたい。」との希望により、ラーメンと餃子にメ ニューを変更したこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	チェック表を使用し、摂取量の状況の把握をして いる。摂取量の少ない時には、代替の品の提供 や好む物を提供し量の確保ができるよう努めてい る。塩分の制限のある方がいた際、出来る限りの 範囲ではあるが、対応に注意し提供行った。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	個々の状態をみながら、物品を用意している。自 分で出来る方は、居室内の洗面所に用意し行っ て頂いている。介助の必要な方には、洗面所に用 意し、声をかけながら実施して頂いている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 認知症高齢者グループホームつくしの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用しながら、間隔を把握している。間隔の空く時には、声掛けし促している。夜間、本人の希望もあり、ポータブルを設置し対応している。	車椅子の利用者であっても、出来るだけトイレで排泄していただけるよう対応している。自分でトイレに行く方が6名、その半数が見守りや声掛けを必要としている。比較的、排泄が自立している利用者が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食品の工夫や体操をする機会を作っているが、便秘がちになる事が多く、下剤での排便コントロールをし、看護師にもアドバイスを頂きながら、定期的に排便が促せるようしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の際、入浴剤の希望があり使用している。時間帯は、その日の中で調整となる事が多いが、ゆっくり入浴して頂けるようにしている。看護師の出動日には、体のチェックをして頂き、皮膚の状態をみて頂いている。	週2回の入浴となっている。入浴しながら利用するには時間をずらして声掛けをしたり、翌日に行っている。利用者の重度化により、4名の利用者はシャワー浴で対応している。	重度化により家庭浴槽での入浴が困難になっている利用者については、何らかの工夫により、湯船につかることができるような対応を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムや体調に合わせてながら、休息して頂けるようにしている。休息時・夜間就寝時、安眠できるに、温度や明るさ等調整しながら休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を管理しながら、用法等を把握しながら対応している。薬の変更時には、病院からの注意事項を聞きながら、薬局からも薬の説明を受け、症状の変化や副作用に気をつけ対応するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の得意な事や好む事を把握しながら、やりがいや喜びがもてるようにしている。食事面の楽しみをもたれる事が多いので、外食ドライブやBBQを行ない、楽しんで頂けるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力で、自宅へ行かれたり、外食に行かれる機方もいる。一緒に買い物に出掛けたり、皆で外出する機会を作り、利用者の楽しみとなるように行く場所を検討している。	気候の良い時は、気仙沼のホテルで食事に出かけることもある。また、家族の協力により、2名の利用者が帰宅している。買い物に出かける利用者は2名、散歩の希望は、週に1～2回と外出の希望は少ない状態となっている。利用者の以前からの生活習慣も影響していると思われる。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 認知症高齢者グループホームつくしの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、職員が管理している事がほとんどだが、希望される際には、持って頂けるようにしている。持たれる際には、家族に、紛失等についても説明し納得・理解を頂きながら対応するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話を掛け本人にも話をしている。。年賀状を送る際、掛ける方には宛名を書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れ飾りつけをしたり、行事や活動の物を掲示している。利用者に声を掛けながら、温度や明るさを調整しながら、居心地よく過ごして頂けるようにしている。	利用者の習字や写真がホールに飾っており、廊下にはソファが設置され、寛げる場所となっている。テレビを見たり、新聞を読む等、ゆったりと過ごしている。利用者同士の関係性に配慮したテーブルの配置となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やフロア、玄関の内外にソファを設置し、その時の気分で自由に過ごせるようにしている。食堂の座席の配置も、その時々で配置を変えながら工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、馴染みの家具等を配置出来る事を説明し持ってこられている方がいる。状態をみながら、配置を検討し、利用者個々にあった空間となるようにしている。	ベッドと筆筒、エアコンが設置されている。布団は持ち込みで、位牌や椅子、孫の写真、ぬいぐるみ等が飾られている。エアコンの温度調整は職員が行っている。また、ベッドは利用者の身体状況に合わせ、必要な方には介護用ベッドが設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入り口に表札があり、自分の居室の場所がわかるようにしている。トイレ等にも掲示をし、わかりやすいようにしている。移動される際に、安全が確保できるよう配置や整理をするようにしている。		